

2012(平成 24)年度法学未修者入学試験問題出題趣旨

【小論文】

1 問題の内容

和歌山県太地町で行われているイルカ漁に対し、批判的な視点から製作されたドキュメンタリー映画「ザ・コーヴ」について、資料として添付した新聞記事を読んで、異なる国の間における異文化の対立であるという背景を考慮しつつ、現地での取材のあり方や映画で描写されている内容、上映に反対する立場からの妨害行為などに関して問題意識が提起されていることを要約摘示した上、これらの問題点についての自説を的確に展開することを求めています。

2 問題の資料の出典

2010年7月3日・毎日新聞夕刊、同月27日・西日本新聞夕刊コラム「チャンネル傍目八目」、同年8月13日西日本新聞学芸・芸術欄、同月17日西日本新聞「コラムデスク日記」

3 出題の趣旨

もとよりイルカ漁や食文化の是非を論じてもらおうというものではありません。それらに関する意見は人それぞれであることを前提とした上で、本問では、意見の形成過程や、その意見の主張のありかたを論じてもらうことを予定しています。

すなわち、意見形成が一方的な価値観に基づくものでもよいのか、別の価値観に基づく反対意見に対する考慮は必要ないのか、意見主張のための表現材料はどのように収集すべきか、主張の公平性・客観性が保たれていることに対する意識が必要か、自らの意見を主張するためには誇張や虚偽が含まれてもいいのか、誇張や虚偽が含まれていることを理由にその主張を暴力等で封じることが許されるのか、などといった問題の所在のほか、価値観の違いが国ごとの文化に根ざす場合、つまり異文化が対立する場面ではどのような対応が求められるのか、といった発展的な問題について、添付資料から読み取り要約することができるかが問われています。そして、要約した問題点に対して、自らの意見を形成し、文章として説得的に構成できるか、的確な表現力を有しているかといったことを問う問題です。

以上